

氏名

点数

点/100点

## 各論演習 8-1

問1)

製品aを大量生産しているABC(株)では、単純総合原価計算によって製品原価の計算を行っている。次の資料にもとづき、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価をそれぞれ求めなさい。

(資料)

## 1.生産データ

月初仕掛品	700kg ( ? )
当月投入	900kg
合計	<u>1,600kg</u>
月末仕掛品	<u>600kg (0.4)</u>
完成品	<u><u>1,000kg</u></u>

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。

(注3) 月末仕掛品の評価は各自推定のこと。

## 2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	959,000円	705,000円
当月製造費用	1,217,000円	2,209,000円

解1)

月末仕掛品原価  円完成品総合原価  円完成品単位原価  円/kg

氏名

点数

点/100点

## 各論演習 8-2

問1)

製品βを大量生産しているJAPAN工業(株)では、単純総合原価計算によって製品原価の計算を行っている。次の資料にもとづき、先入先出法による月末仕掛品原価及び完成品総合原価を求めなさい。また、修正先入先出法による完成品単位原価および純粋先入先出法による完成品単位原価を求めなさい。

(資料)

## 1.生産データ

月初仕掛品	50kg	(0.7)
当月投入	190kg	
合計	240kg	
月末仕掛品	40kg	(0.5)
完成品	200kg	

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。

## 2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	920,000円	378,000円
当月製造費用	3,458,000円	2,183,000円

解1)

月末仕掛品原価		円
完成品総合原価		円
完成品単位原価	修正先入先出法	円/kg
	純粋先入先出法	月初仕掛品完成分 円/kg
		当月着手完成分 円/kg

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 8-3

問1)

単一工程で大量生産している当社は、単純総合原価計算を実施している。次の資料にもとづき、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を求めなさい。また、仕掛品勘定を完成しなさい。なお、完成品単位原価の計算で端数が生じる場合は円未満で四捨五入すること。

(資料)

## 1. 生産データ

月初仕掛品	900個 (2/3)
当月投入	11,100個
合計	12,000個
正常減損	500個
月末仕掛品	1,000個 (1/4)
完成品	10,500個

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。

(注3) 正常減損は、工程の始点で発生しており、度外視法によって処理する。なお、正常減損費の負担関係は発生点の進捗度にもとづいて決定すること。

(注4) 月末仕掛品の評価は先入先出法による。

## 2. 原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	530,000円	152,250円
当月製造費用	9,222,000円	6,394,500円

解1)

月末仕掛品原価  円完成品総合原価  円完成品単位原価  円/個

(単位：円)

## 仕掛品

仕掛品		仕掛品	
月初仕掛品原価		完成品総合原価	
直接材料費	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	加工費	<input type="text"/>
計	<input type="text"/>	計	<input type="text"/>
当月製造費用		月末仕掛品原価	
直接材料費	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	加工費	<input type="text"/>
計	<input type="text"/>	計	<input type="text"/>

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 8-4

問1)

単一工程で大量生産している当社は、単純総合原価計算を実施している。次の資料にもとづき、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を求めなさい。また、仕掛品勘定を完成しなさい。なお、完成品単位原価の計算で端数が生じる場合は円未満で四捨五入すること。

(資料)

## 1.生産データ

月初仕掛品	900個	(2/3)
当月投入	11,100個	
合計	12,000個	
正常減損	500個	
月末仕掛品	1,000個	(1/4)
完成品	10,500個	

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。

(注3) 正常減損は、工程を通じて平均的に発生しており、度外視法によって処理する。

(注4) 月末仕掛品の評価は平均法による。

## 2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	530,000円	152,250円
当月製造費用	9,222,000円	6,394,500円

解1)

月末仕掛品原価  円完成品総合原価  円完成品単位原価  円/kg

(単位：円)

仕掛品			
月初仕掛品原価		完成品総合原価	
直接材料費	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	加工費	<input type="text"/>
計	<input type="text"/>	計	<input type="text"/>
当月製造費用		月末仕掛品原価	
直接材料費	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	加工費	<input type="text"/>
計	<input type="text"/>	計	<input type="text"/>

氏名

点数 点/100点

**各論演習 8-5**

問1)

単一工程で大量生産している当社は、単純総合原価計算を実施している。次の資料にもとづき、各問いに答えなさい。なお、完成品単位原価の計算で端数が生じる場合は円未満で四捨五入すること。

(資料)

1.生産データ

月初仕掛品	500個	(0.8)
当月投入	2,000個	
合計	<u>2,500個</u>	
正常仕損品	200個	(0.5)
月末仕掛品	600個	(0.6)
異常仕損品	200個	(0.7)
完成品	<u><u>1,500個</u></u>	

- (注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。
- (注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度および仕損の発生点の進捗度を示す。
- (注3) 月末仕掛品の評価は修正先入先出法による。なお正常仕損および異常仕損は、すべて当月作業分から生じ、正常および異常仕損品ともに処分価格はない。
- (注4) 正常仕損の完成品、月末仕掛品などへの負担の発生のおさせ方については、発生点の進捗度にもとづいて決定する。

2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	287,000円	604,000円
当月製造費用	1,152,000円	2,448,000円

- 【設問1】 正常仕損非度外視の方法により、異常仕損費、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を算定しなさい。
- 【設問2】 正常仕損度外視の方法により、異常仕損費、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を算定しなさい。

解1)

【設問1】 正常仕損非度外視の方法

異常仕損費	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円		
月末仕掛品原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円		
完成品総合原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円	完成品単位原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> 円/個

【設問2】 正常仕損度外視の方法

異常仕損費	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円		
月末仕掛品原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円		
完成品総合原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	円	完成品単位原価	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> 円/個



氏名

点数

点/100点

## 各論演習 8-6

問1)

製品βを連続生産している当社は、全部実際純粋総合原価計算を採用している。以下に掲げた当社の当月の資料にもとづき、月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を算定するとともに、解答用紙の仕掛品勘定を完成しなさい。

(資料)

## 1.生産データ

月初仕掛品	900個	(0.6)
当月投入	3,200個	
合計	4,100個	
正常仕損品	100個	(0.5)
月末仕掛品	500個	(0.8)
完成品	3,500個	

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度および仕損の発生点の進捗度を示す。

(注3) 月末仕掛品の評価は平均法により、正常仕損の処理は非度外視の方法による。なお、仕損品には1個あたり301.4円の処分価格がある。

## 2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	794,000円	337,500円
当月製造費用	2,830,400円	2,862,000円

解1)

月末仕掛品原価  円

完成品総合原価  円

完成品単位原価  円/個

(単位：円)

仕掛品			
月初仕掛品原価		完成品総合原価	
直接材料費	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	加工費	<input type="text"/>
計	<input type="text"/>	正常減損費	<input type="text"/>
当月製造費用		計	<input type="text"/>
直接材料費	<input type="text"/>	仕損品評価額	<input type="text"/>
加工費	<input type="text"/>	月末仕掛品原価	
計	<input type="text"/>	直接材料費	<input type="text"/>
		加工費	<input type="text"/>
		正常減損費	<input type="text"/>
		計	<input type="text"/>

氏名

点数 点/100点

各論演習 8-7

問1)

かたかな文具(株)では新製品“いまいち消えないボールペン（黒細字）”を連続生産しており、単純総合原価計算を採用している。次の新製品資料にもとづき、新製品“いまいち消えないボールペン（黒細字）”の月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を求めなさい。また、仕掛品勘定を完成しなさい。なお、計算途中で生じた端数についてはそのままとし、最終の解答について生じた端数のみ円位未満を四捨五入すること。

(新製品 資料)

1.生産データ

月初仕掛品	400個	(0.7)
当月投入	4,900個	
合計	5,300個	
正常仕損品	300個	(0.4)
月末仕掛品	600個	(0.6)
完成品	4,400個	

- (注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。
- (注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度および仕損の発生点の進捗度を示す。
- (注3) 月末仕掛品の評価は修正先入先出法による。
- (注4) 正常仕損は、非度外視法によって処理する。なお、仕損品はすべて当月分より生じたものであり、1個あたり299円の処分価値がある。

2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	114,000円	203,400円
当月製造費用	1,127,000円	3,703,000円

解1)

- 月末仕掛品原価  円
- 完成品総合原価  円
- 完成品単位原価  円/個

(単位：円)

仕掛品			
月初仕掛品原価		完成品総合原価	
直接材料費	114,000	直接材料費	
加工費	203,400	加工費	
計	317,400	正常仕損費	
当月製造費用		計	
直接材料費	1,127,000	仕損品評価額	
加工費	3,703,000	月末仕掛品原価	
計	4,830,000	直接材料費	
		加工費	
		正常仕損費	
		計	
	5,147,400		

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 8-8

問1)

グビグビ飲料(株)では、新製品“グビコさんがつくった紅茶ラッテ”を単一工程で大量生産しており、単純総合原価計算を実施している。次の新製品資料にもとづき、新製品“グビコさんがつくった紅茶ラッテ”の月末仕掛品原価、完成品総合原価および完成品単位原価を求めなさい。また、仕掛品勘定を完成しなさい。

(新製品 資料)

## 1.生産データ

月初仕掛品	500本	(2/5)
当月投入	2,900本	
合計	3,400本	
正常減損	200本	(?)
月末仕掛品	400本	(4/5)
完成品	2,800本	

- (注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。  
 (注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。  
 (注3) 月末仕掛品の評価は平均法による。  
 (注4) 正常減損の処理は度外視法による。

## 2.原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	904,700円	533,600円
当月製造費用	5,582,500円	8,654,800円



解1)

月末仕掛品原価  円

完成品総合原価  円

完成品単位原価  円/本



(単位：円)

仕掛品			
月初仕掛品原価		完成品総合原価	
直接材料費	904,700	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	533,600	加工費	<input type="text"/>
計	1,438,300	計	<input type="text"/>
当月製造費用		月末仕掛品原価	
直接材料費	5,582,500	直接材料費	<input type="text"/>
加工費	8,654,800	加工費	<input type="text"/>
計	14,237,300	計	<input type="text"/>
	15,675,600		<input type="text"/>